第29回看護研究会に寄せて

２００８年は特定機能病院の再承認に向けて、職員総力を上げて改善策の実施に取り組みました。２００９年１月１９日、最終の実地調査がありようやく見通しが明るくなりました。

７対１を維持するために必要な看護職員数は安定的に保たれたと実感しています。前年より看護職員が増数可能だったことで一部病棟での夜勤者の増員を図り、２交代への移行病棟も増えました。量的な確保が可能になった分、看護師の疲弊感が軽減できたこと、日ごろ不足と感じている患者さんとのコミュニケーションを密にするための努力などが伺えます。しかし看護実践能力においてはまだまだ患者さんの期待度を満たしていません。

看護の質を高めるためにはＰＤＣＡサイクルを回し続けなければなりません。そのためにも臨床での看護研究を大切にしていきたいと考えます。幸いにも当院では神奈川県立保健福祉大学の水戸優子先生、卒後臨床研修センターの阿部幸恵先生のお二方のすばらしい指導者に恵まれ、慌しい毎日の中でもスタッフの研究に対する意欲は熱いものがありうれしい限りです。

１年間の院内研修のまとめとなる院内研究会は日ごろの成果を紹介出来るよい機会であり、院内での意見の交流の場でもあります。活発な発表の場にしていきましょう。

2009年1月

看護部長

阿　部　満　子